

施策マネジメントシート(平成28年度の振り返り、総括)

作成日 平成 29 年 6 月 14 日

基本目標	V	豊かな心と文化を育むまち	主管課	名称 教育課 課長 杉木 隆司
施策	29	文化財の保存と活用	関係課	

施策の目的	対象	意図	基本事業名	対象	意図	
						1
①町民 ②町内の文化財		①文化財に対する意識を高め、保護や継承を行う。 ②適切に保護され、後世へ継承される。	基本事業	1 文化財の保存	保護や継承に取り組んでいる人 町内の文化財	保護や継承に積極的に取り組める。 適切に保護され、後世へ継承される。
				2 文化財の活用	町民	文化財に関心を持ち、重要性を知る。
				3		
				4		
				5		

成果指標	成果指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
				実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
A	文化財の保護活動参加者数	人		実績値	320	303	565	795	672	
				目標値	320	320	320	320	320	320
B	地域の伝統芸能に参加している町民の割合	%		実績値	10.7	11.1	8.3	8.5	9.2	8.5
				目標値	10.8	11.0	11.2	11.4	11.6	11.8
C	保護・継承されている指定文化財の数	件		実績値	96	96	98	97	102	102
				目標値	97	98	98	99	99	100
D	地域で継承されている伝統芸能の数	件		実績値	30	30	30	30	30	30
				目標値	30	30	30	30	30	30
E				実績値						
				目標値						
F				実績値						
				目標値						

指標設定の考え方と実績値の把握方法

A) 直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成できているといえるため成果指標とした。
 主管課が毎年保護活動に対する謝礼を支払う際に年間の活動実績を調査指定文化財で維持管理に経費の生じるもの(指定文化財全体の約4割)については管理者に対して実績報告に基づき謝金(5,000円～10,000円)を支払っている。
 B) 直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成できているといえるため成果指標とした。
 町民アンケートにより把握
 ※あなたは日頃、文化芸術に触れ親しんでいますか。→「地域の伝統芸能(祭りや神楽、獅子舞など)に参加する」と回答した人の割合
 C) 直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成できているといえるため成果指標とした。
 主管課で実数を把握
 D) 直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成できているといえるため成果指標とした。
 主管課が毎年保存会等代表者に直接聞き取り調査を実施

目標値設定の考え方

A) 地区や神社の役員などがこれに当たるが、年々減少の傾向にあり、成り行き値は2年ごとに5人ほど減少すると予想される。文化財の啓発普及活動を活発にするなど郷土愛とともに地元の文化財を自分たちで保護するという考え方を広める工夫を行うことなどにより現状を維持する。
 B) 伝統芸能の本来の意味に賛同し、継承に新たに係わってくれる人を確保するのは困難であり、高齢化が進行するため、伝統芸能の保護継承に携われる人が徐々に減少するのではないかと。
 C) 今後、指定文化財として指定される可能性のあるものが数件ある。文化財保護委員の活動が活発であり、増加する可能性が高い。2年に1件のペースで増やし、平成29年度に100件をめざす。【沼田市:91件(H28)、片品村:65件(H28)、川場村:10件(H28)、昭和村:21件(H28)】
 D) 現在のところ教育委員会で把握している地域の伝統芸能(太々神楽、獅子舞など)は30件である。いずれも人員・予算的にギリギリの状態であるが、参加者を地元以外の地区以外からも募集するなど様々な工夫をこらして継承している。多少なりとも教育委員会として応援し、現状を維持することを目標とする。

施策のための役割・目標達成	1. 町民(事業所、地域、団体)の役割	2. 行政(町、県、国)の役割
	①身近にある地域文化や文化財に関心を持ち、その重要性を認識するとともに、保護・啓発に努める。 ②地域の伝統行事に積極的に参加し、後世に継承する。 ③保護行政の理解・協力を努める。	①文化財に関する情報を発信するなど、町民の意識啓発を行い、郷土や歴史への認識を深める。 ②建物・史跡・美術工芸・天然記念物等の有形文化財を調査し保護管理する。 ③文化財の保護活動や後継者の育成を支援するなど、地域文化の継承を推進する。

施策を取り巻く状況	1. 施策を取り巻く状況(対象や法令等)は今後どのように変化するか?	2. 施策に対して、住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	①文化庁は従来文化財の保護を重視してきたが、最近では活用にも力を入れ始めている。しかし、観光目的重視というわけではなく、あくまでも文化財保護をクリアしたうえで観光等に活用するという考え方である。 ②町文化財調査委員は意欲的であり、新しい指定文化財が増えていくと考えられる。 ③人口減少や少子高齢化により、伝統芸能の継承者が減少。後継者育成が困難な状態になる。	①文化財等の保存意識の強い住民から、伝統行事の衣装や備品、文化財の修繕に関する要望が多い。 ②文化財の公開の仕方を考えてほしい。特に名胡桃城址や矢瀬遺跡。 ③予算的な措置と合わせて後継者の募集なども協力して欲しいとの要望がある。

施策	29	文化財の保存と活用	主管課	名称 教育課 課長 杉木 隆司
----	----	-----------	-----	--------------------

施策の成果水準の分析と背景・要因の考察	実績比較		背景・要因
	① 時系列比較	<input type="checkbox"/> かなり向上した。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> ほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> どちらかといえば低下した。 <input type="checkbox"/> かなり低下した。	①文化財の保護活動参加者は平成27年度に実績値の算定値を精査した結果795人に急増したが、平成28年度は672人となった。しかし参加者数は高い数値を維持している ②地域の伝統芸能へ参加している町民の割合は、目標値には達していないが、年々微増の状況にあった。しかし本年度は、26年度の数値に後退した。 ③指定文化財数は、昨年と変わらず102件だった。 ④地域で継承されている伝統芸能の数は、ここ数年変化はなく30件を維持している。
		<input type="checkbox"/> かなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば高い水準である。 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い水準である。 <input type="checkbox"/> かなり低い水準である。	①近隣自治体と比較して、指定文化財の数は多い。要因として町民の歴史に対する意識が高いことも考えられる(実際に歴史的遺産を文化財指定するかしないかは文化財調査委員や教育委員会が判断)が、一般的に街道沿いには文化財が多いことから、三国街道があったことが大きな要因と思われる。 ※平成28年4月1日現在の各市町村の指定文化財数 みなかみ町 国：8 県：21 町：73 計：102 沼田市 国：3 県：14 市：74 計：91 片品村 国：3 県：7 村：55 計：65 川場村 国：1 県：4 村：5 計：10 昭和村 国：0 県：2 村：19 計：21
	③ 目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値を多少上回った。 <input type="checkbox"/> ほぼ目標値どおりの成果であった。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少下回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を大きく下回った。	①文化財の保護活動参加者数 平成27年度と比較すると減少はしているが、依然目標値は大きく上回った。文化財保護活動の大切さについて、周知を継続していることで、関係者の取り組み意欲が維持されているためと考える。 ②地域の伝統芸能に参加している町民の割合 目標値を下回った。人口減少にも関連していると思われるが、地域の行事等には気軽に参加できるが、伝統芸能となると敷居が高く限られた人の活動という意識があり、日頃から親しむという感覚はないのではないかと考えられる。 ③保護・継承されている指定文化財の数 目標値99件に対して現時点で、102件である。当初の目標であった2年に1件を指定して、平成29年度までに指定文化財を100件とすることを目標としていたが、既にこの目標は達成できている。 ④地域で継承されている伝統芸能の数 目標値どおりだった。しかし、予断はできず人口の高齢化・減少を起因として、地域に伝わる神社行事などの伝統芸能が衰退・無くなってしまふ恐れは依然として残っている。
成果実績に対する総括	① 指定文化財および伝統芸能の数については目標どおりである。重要文化財や史跡、天然記念物など物件としての文化財は残りやすいが、伝統芸能など無形文化財等はそれに関わる人がいなくなると消滅するおそれがある。現在、指定文化財に関しては所有者・管理者に対して管理状況等を調査し、それに対して文化財管理謝金を支払う措置を施すことによって文化財の保護・継承に努めている。 また、伝統芸能については実際の映像を後生に残すため、実演風景を記録媒体に録画している。 ②平成26～28年度の3カ年で矢瀬遺跡保存修復事業を予定通り完了し、史跡公園全体がリニューアルした。 ③水上石器時代住居跡調査事業の結果に基づき、国指定範囲を拡張した。 ④平成29年3月付けで、羽場日枝神社の獅子舞が町→県指定文化財に格上げとなった。		

今後の課題と取り組み方針(案)	基本事業名	今後の課題	平成30年度の取り組み方針(案)
	1 文化財の保存	①指定文化財の老朽化が目立ち、修繕が必要。 ②専門性が要求される事業で、特定の職員の負担が大きくなり一般文化財の保存に十分対応できなくなっている。 ③伝統文化の後継者育成が急務の課題である。	①専門家の調査において、早急な修繕が必要となっている国指定・旧戸部家住宅のかやぶき屋根修復作業を行う。 ②専門的知識を持った職員の採用を含め検討したい。 ③伝統文化の保存・継承に向けた支援・助言を行う。
	2 文化財の活用	①平成28年で矢瀬遺跡保存修復事業が完了した。今後は矢瀬遺跡を含め、文化財の活用が求められる。 ②町内5ヶ所の資料館は文化財の啓発普及に大きくつながるが、入館者数については横ばいの状態であるため、地元団体等との連携を含め、見学者を増やす取組が必要。	①町の歴史ガイドや、関係部署等と連携し、文化財を活用した事業の展開をはかり、観光資源としての活用を進める。 ②資料館を、有効的に活用するための展示内容や運営方法を検討し資料館としての質を高める。 ③町内の学校や町民に、町で作成したパンフレットや資料の利用を促し、町内文化財への関心と、学習教材としての活用を推進する。
	3		
4			

29 文化財の保存と活用

平成 28 年 7 月 8 日作成 (平成 29 年 5 月 31 日更新)

H29/08/24確定

事務事業	000001	国指定文化財管理事業		① 事務事業の内容		③課題解決のため取り組んだ事、その結果		事業費	149,224 円	
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用		文化財保護事業の中でも国指定文化財に限定した管理事業。現在、8件のみなかみ町指定文化財があり、主に草刈り、清掃等の環境整備を行っている。毎年、県から依頼される「地方文化行政状況調査」、「特別地方交付税算定調査」等で国、県、町指定文化財それぞれの経費をあげなければならないため、国、県、町で分けなければならない。	町外文化財に対する積極的な視察・研修を行い、国指定文化財の保護管理業務の参考とした。今年度は雲越家住宅の現地説明資料に中之条町旧富澤家住宅の方法を取り入れた。	事業実績			
	基本事業	01	文化財の保存				主な文化財の見学者数(雲越家住宅・旧戸部家住宅)			
根拠	無	組織	教育 課 生涯学習推進 G	課長	杉木 隆司	②事務事業の課題		④今後の方針・課題解決策		
事業期間	継続事業 H ~ 年間		会計	1 款	10 項	6 目	4	平成27年度	平成28年度	単位
								1,764	1,445	人

平成 28 年 7 月 8 日作成 (平成 29 年 5 月 31 日更新)

H29/08/24確定

事務事業	000002	県指定文化財管理事業		① 事務事業の内容		③課題解決のため取り組んだ事、その結果		事業費	844,336 円	
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用		文化財保護事業の中でも県指定文化財に限定した管理事業。現在、22件の県指定文化財があり、主に草刈り、清掃等の環境整備を行っている。毎年、県から依頼される「地方文化行政状況調査」、「特別地方交付税算定調査」等で国、県、町指定文化財それぞれの経費をあげなければならないため、国、県、町で分けなければならない。なお、平成22年度より名胡桃城址保存整備委員会を設立。今後、名胡桃城址の保存管理計画を策定すると同時に史跡整備を行っていく。	町外文化財に対する積極的な視察・研修を行い、県指定文化財の保護管理業務の参考とした。今年度は旧足利学校の事例を参考に猿ヶ京開所跡で毎年10万円分の差茅修繕を行う計画をたてた。	事業実績			
	基本事業	01	文化財の保存				主な文化財の見学者数(名胡桃城址)			
根拠	無	組織	教育 課 生涯学習推進 G	課長	杉木 隆司	②事務事業の課題		④今後の方針・課題解決策		
事業期間	継続事業 H ~ 年間		会計	1 款	10 項	6 目	4	平成27年度	平成28年度	単位
								10,867	67,141	人

平成 28 年 7 月 8 日作成 (平成 29 年 5 月 31 日更新)

H29/08/24確定

事務事業	000003	町指定文化財管理事業		① 事務事業の内容		③課題解決のため取り組んだ事、その結果		事業費	237,800 円	
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用		文化財保護事業の中でも町指定文化財に限定した管理事業。現在、66件のみなかみ町指定文化財があり、主に草刈り、清掃等の環境整備を行っている。毎年、県から依頼される「地方文化行政状況調査」、「特別地方交付税算定調査」等で国、県、町指定文化財それぞれの経費をあげなければならないため、国、県、町で分けなければならない。	町外文化財に対する積極的な視察・研修を行い、町指定文化財の保護管理業務の参考とした。今年度は町外の山城を参考に小川城址パンフレット作成に取り組み、下書きまで作成した。	事業実績			
	基本事業	01	文化財の保存				月夜野郷土歴史資料館見学者数(町指定文化財を展示している)			
根拠	無	組織	教育 課 生涯学習推進 G	課長	杉木 隆司	②事務事業の課題		④今後の方針・課題解決策		
事業期間	継続事業 H ~ 年間		会計	1 款	10 項	6 目	4	平成27年度	平成28年度	単位
								433	260	人

平成 28 年 7 月 8 日作成 (平成 29 年 5 月 31 日更新)

H29/08/24確定

事務事業	000004	埋蔵文化財調査事業		① 事務事業の内容		③課題解決のため取り組んだ事、その結果		事業費	0 円	
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用		埋蔵文化財包蔵地で開発が行われ、それに伴い発掘調査が行われる場合に必要事業。したがって、普段は行わない事業であり、当初予算も計上していない。なお、町村合併後の実績はほとんどなく、年間1件程度の試掘調査だけである。ただし、このほか平成25年度から平成27年度までの3ヶ年計画で、国史跡水上石器時代住居跡の遺跡範囲確認調査を実施する。	県文化財保護課が行った試掘調査の立ち会いをさせていただき、現場での調査要領等を視察した。	事業実績			
	基本事業	01	文化財の保存				埋蔵文化財包蔵地確認(照会)			
根拠	無	組織	教育 課 生涯学習推進 G	課長	杉木 隆司	②事務事業の課題		④今後の方針・課題解決策		
事業期間	継続事業 H ~ 年間		会計	1 款	10 項	6 目	4	平成27年度	平成28年度	単位
								30	36	件

29 文化財の保存と活用

平成 28 年 7 月 8 日作成 (平成 29 年 5 月 31 日更新)

H29/08/24確定

事務事業	000005	文化財調査委員会事業	① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	548,021 円		
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用	文化財調査委員を招集し、文化財の保護と啓発普及のために調査委員と連携して文化財全般に関する調査研究を行う。	調査委員から指摘されていた新治地区中世城郭を文化財指定するため、類似史跡の視察・研究を継続した。これに基づき猿ヶ京城址に関する諮問・答申を行えた。	事業実績		
	基本事業	01	文化財の保存			資料館(月夜野・水上・雲越)見学者数		
根拠	無	組織	教育 課 課長 杉木 隆司 生涯学習推進 G	②事務事業の課題	④今後の方針・課題解決策	平成27年度	平成28年度	単位
事業期間	継続事業 H ~ 年間	会計	1 款 10 項 6 目 4	担当者の専門性を高める。	継続して中世城郭の新たな文化財指定、またはすでに指定されている城郭の調査研究を行い、啓発普及に努める。	2,197	1,705	人

平成 28 年 7 月 8 日作成 (平成 29 年 5 月 31 日更新)

H29/08/24確定

事務事業	000006	矢瀬遺跡保存修復事業	① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	16,468,493 円		
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用	平成10~12年度に建設した矢瀬遺跡復元施設の老朽箇所を国庫補助事業により修繕。 平成26年度 1号住居、9号住居、高床建物、半截材方形木柱列 平成27年度 7号住居(四隅袖付炉の館)、16号住居、園路内木材チップ、屋外消火栓覆屋 平成28年度 水場遺構、祭壇遺構	工事中は毎週、設計業者・施工業者同席の打合せ会議を綿密に行い、工事はすべて予定通り完了し、工事報告書も刊行できた。	事業実績		
	基本事業	01	文化財の保存			工事検査引渡事務		
根拠	有	組織	教育 課 課長 杉木 隆司 生涯学習推進 G	②事務事業の課題	④今後の方針・課題解決策	平成27年度	平成28年度	単位
事業期間	継続事業 H 26 ~ 3 年間	会計	1 款 10 項 6 目 4	現状通り設計業者および施工業者との連携を密に行う。	平成28年度で終了	2	1	回

平成 28 年 7 月 8 日作成 (平成 29 年 5 月 31 日更新)

H29/08/24確定

事務事業	000001	月夜野郷土歴史資料館管理運営事業	① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	2,115,208 円		
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用	月夜野郷土歴史資料館の管理運営	地元の町組より活用促進を求める請願が提出され、議会でも検討されている。	事業実績		
	基本事業	02	文化財の活用			来館者数		
根拠	無	組織	教育 課 課長 杉木 隆司 生涯学習推進 G	②事務事業の課題	④今後の方針・課題解決策	平成27年度	平成28年度	単位
事業期間	継続事業 H ~ 年間	会計	1 款 10 項 6 目 3	撤去費用が高額であり、その計上方法を検討しなければならない。	関係部署、地元団体等と連携し、見学者が増加するよう工夫をしていく。	433	260	人

平成 28 年 7 月 8 日作成 (平成 29 年 5 月 31 日更新)

H29/08/24確定

事務事業	000002	水上歴史民俗資料館管理運営事業	① 事務事業の内容	③課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	4,851 円		
施策体系	施策	29	文化財の保存と活用	水上歴史民俗資料館の管理運営	数百点にわたる展示物のキャプションを書き換えて新しくした。また、大型の年表も新たに作成した。	事業実績		
	基本事業	02	文化財の活用			来館者数		
根拠	無	組織	教育 課 課長 杉木 隆司 生涯学習推進 G	②事務事業の課題	④今後の方針・課題解決策	平成27年度	平成28年度	単位
事業期間	継続事業 H ~ 年間	会計	1 款 10 項 6 目 3	専門分野に関わることであり、担当者による研究が必要。また、観光部門との連携、より一層の展示内容の工夫が必要。	展示物自体を見直し、テーマをもった資料館展示に変えていく必要があり、調査研究を継続していく。	1,147	986	人

29 文化財の保存と活用

平成 28 年 7 月 8 日作成 (平成 29 年 5 月 31 日更新)

H29/08/24確定

事務事業	000003	雲越家住宅資料館管理運営事業	① 事務事業の内容	③ 課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	559,544 円	
施策体系	施策	29 文化財の保存と活用	雲越家住宅資料館の管理運営	みなかみ町教育旅行者と連携して団体客の入り込みを行った。	事業実績		
基本事業	02 文化財の活用	来館者数					
根拠	無	組織	② 事務事業の課題	④ 今後の方針・課題解決策	平成27年度	平成28年度	単位
事業期間	継続事業	教育 課	地域住民の協力と観光部局との連携	地元、観光関係者等と連携して団体を中心に見学者を増やしていく。	617	459	人
	H ~ 年間	生涯学習推進 G	課長 杉木 隆司				
		会計	1 款	10 項	6 目	3	

平成 28 年 7 月 8 日作成 (平成 29 年 5 月 31 日更新)

H29/08/24確定

事務事業	000004	永井宿郷土館管理運営事業	① 事務事業の内容	③ 課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	500,000 円	
施策体系	施策	29 文化財の保存と活用	予算上は郷土歴史資料館等管理運営事業に統合している。	指定管理事務を行い、地元永井区に管理全般を委託した。	事業実績		
基本事業	02 文化財の活用	来館者数					
根拠	無	組織	② 事務事業の課題	④ 今後の方針・課題解決策	平成27年度	平成28年度	単位
事業期間	継続事業	教育 課	指定管理しているため、基本的には展示内容等を含め永井区に委託している。	管理は永井区に委託できるが、他の資料館と同様に調査研究を行ったうえで資料館としての質を高める必要がある。	500	511	人
	H ~ 年間	生涯学習推進 G	課長 杉木 隆司				
		会計	1 款	10 項	6 目	3	

平成 28 年 7 月 8 日作成 (平成 29 年 5 月 31 日更新)

H29/08/24確定

事務事業	000005	県博物館連絡協議会参画事業	① 事務事業の内容	③ 課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	10,000 円	
施策体系	施策	29 文化財の保存と活用	群馬県内における公設・私設資料館および美術館等の連絡協議会事務。	できる限り総会・研修会等に積極的に参加することにより、他の資料館等と連絡調整体制を維持した。	事業実績		
基本事業	02 文化財の活用	入館者数					
根拠	無	組織	② 事務事業の課題	④ 今後の方針・課題解決策	平成27年度	平成28年度	単位
事業期間	継続事業	教育 課	専門的な学芸員(資料館・博物館専門員)がいないため、この業務を専属でできる職員がいない。	資料館の質を高めるためにも連絡協議会主催事業にできる限り参加する。	433	260	人
	H ~ 年間	生涯学習推進 G	課長 杉木 隆司				
		会計	1 款	10 項	6 目	3	

平成 28 年 7 月 8 日作成 (平成 29 年 5 月 31 日更新)

H29/08/24確定

事務事業	000006	猿ヶ京関所資料館管理運営事業	① 事務事業の内容	③ 課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	1,056,000 円	
施策体系	施策	29 文化財の保存と活用	猿ヶ京関所資料館の管理運営	猿ヶ京温泉地区活性化委員会に参加して、地元における猿ヶ京関所跡の位置づけを確認するとともに今後の活用計画(資料館として一般公開を行う事等)を周知した。	事業実績		
基本事業	02 文化財の活用	入館者数					
根拠	無	組織	② 事務事業の課題	④ 今後の方針・課題解決策	平成27年度	平成28年度	単位
事業期間	継続事業	教育 課	専門分野に関わることであり、担当者による研究が必要。また、観光部門と提携することにより一層の展示内容の工夫が必要。	展示キャプション等が古く、新しいものに書き換える必要がある。	2019	1316	人
	H ~ 年間	生涯学習推進 G	課長 杉木 隆司				
		会計	1 款	10 項	6 目	3	

